

主な出来事

【内政】

- 4日, サル大統領はトゥーレ首相の解任を発表した。
- 6日, サル大統領はジョヌ新首相の任命を発表した。
- 6日, サル大統領は新内閣を発表した。
- 31日, 前政権における不正資金取得の疑いで収監されているカリム・ウッド元大臣の公判が開始された。

【外政】

- 10日, サル大統領はアクラ(ガーナ)で開催された第45回 ECOWAS 首脳会合に出席した。

【経済】

- 19日, 林毅夫政府特別アドバイザー(元世銀チーフエコノミスト)以下, 投資家・ビジネス関係者からなる中国代表団がセネガルを訪問し, ジャムニャジョ都市圏, ブレーズ・ジャーニュ新空港, ダカール自治港を訪問したほか, サル大統領, ジョヌ首相及びタル・セネガル新興計画(PSE)担当相と会談を行った。
- 南アフリカ航空及びエチオピア航空に続き, ロイヤル・モロッコ航空及びアフリキヤ航空(リビア)がセネガル・エアラインズ社による業務提携の申し入れを却下した。

【内政】

1 地方選挙

- 11日, ウマル・サール前ダガナ(サン・ルイ州ダガナ県)市長(野党 PDS ナショナル・コーディネイター)が再選された(12・13日 Soleil)。
- 14日, マンスール・ファイ水力・衛生大臣(当館注: 与党 APR 所属, 大統領夫人の実兄)がサン・ルイ新市長に選出された。同市においては当初野党 PDS の優勢が報じられており, 対立候補であった同党所属のブラヤ氏率いる And defar Ndar ak Sopi 連合は, 一部で不正が行われたとして市議会への出席をボイコットしている(14日 Setal.net)。
- 21日, イドリサ・セック前チェス市長がチェス県議会新議長に選出された(22日 Walfadjri)。
- 24日, サル大統領の実弟であるアリユー・サル氏がゲジャワイ新市長に選出された(25日 Soleil)。
- 26日, アブドゥライ・バルデ前ジガンシオール市長が再選された(26日 APS)。

2 首相交代及び新内閣発足

- 4日, サル大統領はトゥーレ首相の解任を発表した(5・6日 Soleil)(往電第 815号)。
- 6日, サル大統領はモハメド・ブン・アブダラー・ジョヌ新首相の任命を発表した(7日 Soleil)(往電第 836号)。

- 6日、サル大統領は新内閣の閣僚リストを発表した(7日 Soleil)(往電第841号)。
- 11日、ジョヌ首相はトゥーバを訪問し、ムリッド教団総カリフと会談を行った(12・13日 Soleil)。
- 24日、ダカールのグラン・ヨフ区でトゥーレ前首相を支持する34団体が新団体「Réseau Dolel Mimi(RDM)」を立ち上げるための集会を開いた。同団体は8月初旬に正式発足する予定(25日 Walfadjri)。

3 前政権の不正追及

- 11日、バルデ・ジガンシオール市長(当館注:ワッド前政権下で鉱山大臣)は、財の不正取得抑制のための監査院(CREI)に出頭した。同市長は1か月以内に52億1,500万 Fcfaの資産が合法的に取得したものであることを証明することを義務づけられている。また、警察は集まった支持者に対し、催涙ガスを使用した(12・13日 Soleil)。
- バルデ市長への CREI 出頭命令に対し、地元カザマンス地方の宗教指導者、カザマンス民主勢力運動(MFDC)、女性指導者らが反対運動を予告した(14日 Leral.net)。
- 31日、前政権における不正資金取得の疑いで収監されているカリム・ワッド元大臣の公判が開始された。しかし、政府側弁護団より、同元大臣弁護団の中に4名の元大臣がおり、過去3年以内に公務員、大臣等の公職についていた者は国家を相手取る裁判において弁護人を務めることができないという法律に触れるという訴えがあったことから、同公判は8月4日まで延期される旨発表された(1日 APS)(往電第943号)。

4 カザマンス紛争

- イキリスト教団体サンテジディオ発表のコミュニケによると、政府代表と MFDC サリフ・サジョ派は9日から11日にかけてローマで和平交渉を行った(19・20日 Populaire)。
- 21日、MFDCと思われる武装集団がジガンシオール州ビニョナ県バジャナ村の国道5号線上で通行車両を襲い、車両4台、現金、携帯電話、衣類等を強奪してガンビア国境方面に逃走した(21日 PANA)。
- 22日、カザマンス民主勢力運動(MFDC)創設者のジャマクン神父の弟であるベルトラン・ジャマクン・サンゴール氏がジガンシオール市で死去した(22日 APS)。

5 水問題

- 13日、水配給会社(SDE)社長はクル・モマル・サール上水施設が送電の停止のために12日朝から操業を停止していた件について、12日夕方までに送水が再開した旨発表した(14日 Sud Quotidien)。
- 16日の閣議において、サル大統領は都市部及び農村部における水・衛生関連のインフラ整備が優先課題である旨述べた(17日 Soleil)。

- 17日、ジョヌ首相は洪水防止10か年計画にかかる省庁間技術会合を開催し、ピキン市及びゲジャワイ市における排水ポンプ設備の改修、低地の排水の改善及び内陸の都市に雨水の排水設備を整えることが急務である旨述べた(18日 Soleil)。

6 その他

- 9日夜から10日にかけての豪雨により、マタム州マタム県で家屋の浸水、倒壊等の被害が発生した(14日 APS)。
- 17日、タンバクンダ市において、同地域で押収された違法薬物1,240キロ(コカイン2キロ、インド大麻224キロ、アンフェタミン20キロ、メタンフェタミン21キロなど)を焼却するセレモニーが開催された。これらの薬物の90%がキディラ(当館注:国道1号線のセネガル・マリ国境通過地点)経由でマリから持ち込まれるほか、トランスガンビアン・ハイウェイを通じてギニア及びギニアビサウからも密輸されている(18日 Soleil)。
- 政府は著書『セネガル憲兵隊の名誉のために(Pour l'honneur de la gendarmerie sénégalaise)』において過去の軍・警察における不正を暴露したアブドゥライ・アジズ・ンダウ大佐に対し、武官として任務に就いているローマからの帰国を命じた(当館注:同書の内容は政府及び軍とカザマンズ民主勢力運動(MFDC)の癒着、拷問の実施、警察上層部の薬物取引への関与等を暴露するもの)(21日 Observateur)。
- 今年度バカロレアの合格率は31.3%と、昨年度(38.3%)より7%下落している(22日 Soleil)。

【外政】

1 サル大統領と各国要人の会談

- 8日、セネガルを訪問中のティーマーマンス・オランダ外相は、ンジャイ外相、続いてサル大統領と会談を行った(9日 Soleil)。
- 9日、セネガルを訪問中のムクナス・モーリタニア通商・手工業・観光大臣は、サル大統領と会談を行った(10日 Soleil)。

2 サル大統領らのパレスチナ関連発言

- 16日の閣議において、ンジャイ外相は中東情勢に言及し、パレスチナ問題の解決のためにはパレスチナの人々の正当な権利を尊重する永久的解決策の特定が急務である旨発言した(17日閣議コミュニケ)(往電第910号)。
- 29日、スリニュー・シディ・モクタール・ンバケ・ムリッド教団総カリフは、コリテ(断食明け小祭)に際し、「暴力の犠牲となっているパレスチナの人々に対する同情」を表明する旨発言した(29日 APS)。
- 31日の閣議において、サル大統領は中東情勢の悪化に深い懸念を表明し、ガザにおける学校の爆撃を強く非難するとともに、「国際社会、とりわけ国連安全保障理事会に対し、即時かつ無条件の停戦のために必

要なあらゆる圧力を行使することを改めて呼びかける」と述べた(31日 APS)(往電第 978 号)。

3 バルデ元ガンビア・スポーツ相の死去

- 10日、8日にダカールで死去したブバ・バルデ元ガンビア・スポーツ大臣がヴェリンガラ州メディナ・グナスで埋葬された。同元大臣はジャワラ政権崩壊後セネガルに亡命しており、ガンビアで埋葬される予定だったが、同国領内への遺体の搬送をガンビア当局に拒否されていた(10日 APS)。

4 カバ法相の国際刑事裁判所 (ICC) 関連発言

- 10日、カバ法相はアフリカ社会科学研究開発評議会 (CODESRIA) 主催のフォーラムにおいて、ICC の活動の対象は特定の地域に限定されるべきではなく、アフガニスタン、イラク、中東、ウクライナ等の事案も扱われるべきである旨発言した(10日 APS)。

5 第 45 回 ECOWAS 首脳会合

- 10日、サル大統領はアクラ(ガーナ)で開催された第 45 回 ECOWAS 首脳会合に出席した(11日、12・13日 Soleil)。

6 国連マリ多元統合安定化ミッション (MINUSMA) 第二次隊の派遣

- 23日、国家警察から MINUSMA に派遣される第二次隊(140名)が出発する予定。同隊は昨年 7 月から MINUSMA に派遣されている第一次隊と交代で、キダル及びガオでの任務に就く(16日 APS)。

【経済】

1 財政

- 6月12日の大統領令で定められた公務員住宅の合理化(公務員住宅を廃止する代わりに住宅手当を従来の倍額にするもの)により、政府支出が 32 億 5,700 万 Fcfa 削減される見通し(10日 Observateur)。

2 ビジネス環境

- 2日、セネガル・ベルギー協力プログラム年次レビューに出席したシセ予算担当大臣は、公共調達契約締結に時間がかかりすぎること開発計画の実施に遅れが生じている旨発言した(2日 APS)。
- 8日、建設許可電子申請 (TELEDAC) 制度に関する報告会が開催され、本年 3 月のダカール県における同制度運用開始以来、226 件の申請があった旨発表された。また、ピキン県、ゲジャワイ県、リュフィスク県においてもまもなく運用が開始される(9日 Soleil)。

3 金融機関における手数料等の廃止

- コネ西アフリカ諸国中央銀行 (BCEAO) 総裁は、10月1日以降、金融機関における口座の開設及び閉鎖、通帳の発行、残高証明の発行、年間手数料証明書の発行、現金の入金等の手数料が無料となる旨発表した(11日 Soleil)。

4 中国代表団の訪問

- 19日、林毅夫(Justin Yifu Lin)政府特別アドバイザー(元世銀チーフエコノミスト)以下、投資家・ビジネス関係者からなる中国代表団がセネガル新興計画(PSE)における産業拠点整備計画への投資の可能性を探ることを目的にセネガルを訪問した。同代表団は PSE 及びセネガルのビジネス環境に関する説明を受け、ジャムニャジョ都市圏、ブレース・ジャーニュ新空港、ダカール自治港を訪問したほか、サル大統領、ジョヌ首相及びタル PSE 担当相と会談を行った(21日 APS)。

5 セネガル・エアラインズ社関連

- 南アフリカ航空及びエチオピア航空に続き、ロイヤル・モロッコ航空及びアフリキヤ航空(リビア)がセネガル・エアラインズ社による業務提携の申し入れを却下した(21日 Observateur)。
- 17日深夜から18日未明にかけて、リーブルビル(ガボン)のレオン・ンバ国際空港において、ダカール発コトヌ経由リーブルビル行のセネガル・エアラインズ便(ボーイング 737-700 機)が、着陸後の滑走路において歩行者1名をジェットエンジンに吸い込み、死亡させる事故が発生した。同便には乗客130名、乗員7名が搭乗していたが、被害者の身元は不明(18日 Gabonactu)。

6 経済協力

- 10日、バ経済・財政大臣とソングエ世銀セネガル部長は、シェーク・アンタ・ジョップ大学に設置される母子保健研究機関及びガストン・ベルジェ大学(サン・ルイ)に設置される数学・情報・IT・コミュニケーション研究機関にかかる80億 Fcfa の契約に署名を行った(10日 APS)。

(了)